

# 市民とともに 新しいまちづくり

## 秋岡市長が所信表明

定例市議会が12月3日召集され、本会議の冒頭、秋岡市長が初めての所信表明をし、市政の基本理念と運営方針を述べました。

### はじめに

このたび、多くの市民皆さまのご支援をいただき、平成の大合併では県内トップを切った新高梁市の初代市長を務めさせていただくことになりました。

合併直後の市政を担うこととなり、その責任の重大さに身の引き締まる思いではありますが、市民の皆さんの負託にお応えするため、全力を尽くして市政の推進に努めてまいります。

さて、わが国の社会経済は、これまで経験したことのない変革の時代を迎えており、自治体を取り

巻く環境も急速に進む少子高齢化、景気の低迷等を背景に、地方分権の進展・市町村合併など大きく変化してきております。

このことは、単に自治体の権限の拡大を示すものではなく、自らの知恵と責任で積極的にまちづくりを進めることのできる時代が来たことを意味するものであります。

また、三位一体改革による地方交付税の減額や補助金等の縮減などにより、地方自治体を取り巻く環境は一層厳しさを増し、先行き不透明な時代を迎えております。こうした自治体が置かれた状況



所信を述べる秋岡市長

と「与えられた職責を深く認識し、「市民のための市政」を常に考えながら、市民と協働のまちづくりを進めていくとともに地域の特長を生かし、融和のとれたまちづくりで「合併してよかった」といわれるような点を施策の基本理念に据え、「皆さまとともに新しいまちづくり」を進めてまいります。

### 市政に取り組み 基本理念

#### 皆さまとともに歩む市政

市政は、市民のために創られ、展開されるべきものであります。最少の経費で最大の効果を上げることが基本に、政策の実施を通じて、市民に幸せを感じていただくことが社会的な要請であります。

したがって、常に、行政全般の点検・評価を行いながら、より良い政策づくりに取り組み、情報公開と対話によって市民と同じ目線でまちづくりを進めてまいります。

また、市民だれもが安心して個性豊かな生活を送り、ともに支え合いながら生きがいを持って暮ら

すことのできるまちを築くには行政だけで実現することはできません。まちづくりには、ふるさとを愛する市民と行政とが、地域社会の目指すべき方向や果たすべき役割について共通の認識を持ち、それぞれが持つ力を十分生かしながら、適切な役割分担のもと、協働で取り組むことが必要であります。このことにより、多様な知恵と行動をまちづくりに生かすことができ、まちに個性と魅力、そして元気が生まれてまいります。

#### 新市の創造に向けた たゆまぬ挑戦

合併により新市が誕生いたしました現在、市民皆さまの参画のもと、交流と連携により新しい市の一体性を確立することは新市の重要な課題であると認識いたしております。

地域局をそれぞれの地域におけるサービスの拠点として、行政サービスの維持向上を図っていくと

ともに、また、地域審議会の機能を有する「まちづくり協議会」を設置し、住民の意向がまちづくりに反映できる組織・仕組みを整備してまいります。

このように一体性を確立する中で、旧5市町の長い歴史の中で培われてきた農業、商工業、観光など素晴らしい素材をうまく引き出し、「適地適策」により活力に満ちたまちづくりに取り組んでまいります。

申し上げるまでもなく、地域の発展は、地域経済の活力に大きく依存しています。県中西部の拠点都市として発展するためにも、経済力の強化は不可欠であります。

そのため、農業を核に、産業界の連携を深め、市場を域外に広げながら、地域の経済力を高めていく必要があります。行財政改革を進め中長期的な展望を持って、足腰の強い地域経済づくりに取り組まなければならないと考えております。

また、夢と活力のある豊かな新高梁市の創造に向け、市民一人ひとりが持てる力を結集し、効率的なスピードある行政により、元気で魅力あるまちづくりにたゆまぬ挑戦を続けてまいります。

#### 人と自然に やさしい市政

「人と自然にやさしい市政」を進めてまいります。すなわち痛みがわかる行政であり、思いやりの行政であります。

私たちは、高度に発達した文明の中で、豊かな社会を実現してまいりました。しかし一方で、経済社会の大きな転換期にあつて、将来に対する漠然とした不透明感が広がっております。

私は、こうした中でこそ、安心して暮らすことができる心豊かな地域社会の形成が強く求められていると考えております。良好な環境は、私たちの生存や活動を根底から支える極めて重要なものであります。また、これからの社会において、「人と自然にやさしい」とを、誰もが当たり前と感じ、共通の意識になることが大切であると考えております。

こうした考えのもとで、まちづくり計画を実施してまいります。が、厳しい財政事情の中で緊急度を検討し、特例債に安易に頼ることなく事業内容を見定めて、「文化の薫り高いまちづくり」に努める所存でございます。